

家庭学習を見直してみませんか

平成14年3月
栃木県総合教育センター研究調査部

文科省の「学びのすすめ」が出たけれど、宿題をたくさん出すことになるのかな？「補習」も気になるね。学力低下も心配されているし…。



これまで宿題を減らしてきたのに……。保護者の中にも、たくさん出してほしいという方と、あまり出さないでほしいという方がいらっしゃるし……。子どもたちはどうなのかしら？

NHKの調査では、栃木県のテレビ視聴時間は全国一で、読書や家庭学習時間の減少も問題になっているそうよ。うちの学校の子どもたちはどうなのかしら？



でも、ほんとうに宿題を出すことで、家庭学習の習慣が付いているのかな？宿題って何だろう？ほかの先生方はどんな工夫をしているのかな？

「学ぶ習慣」を考える

私たちは、いわゆる知識偏重への反省から、学力観の転換を図ってきました。そしていま、主体的に問題を解決する能力の育成とその基盤となる学力を保障することが学校に求められており、「宿題」が話題となっています。



では、家庭学習の一部である「宿題」を増やせば学力は向上するのでしょうか。

確かにたくさん勉強すれば、ある程度学力は向上するでしょう。しかし、現在のテストや進学を目標にした学習だけでは、目標到達後に学ぼうとする意欲が消失してしまいがちです。このことから考えると、「分かる」、「できる」授業の実現とあわせて、自ら学ぶ習慣が付くよう指導することが大切です。

ここで注意したいのは、「学ぶ習慣」とは、単に机に向かう習慣ではないということです。学ぶことのよさ、すばらしさを実感する体験を積むことによって、結果的に習慣が付くことをめざしたいものです。



「宿題」のよさを次のように考えてみてはどうでしょうか。
子どもが自ら楽しんで学ぶきっかけになる
生涯にわたって学ぶ姿勢の基礎をつくる
『確かな学力』が身に付く

「宿題」を見直してみましよう

学校全体として



ところで、先生方は宿題についてどう考えているのかな？今までに出した宿題について、じっくり話し合っておくことも必要ですね！

先生一人ひとりの宿題に対する考え方の違いによって、宿題の出し方にも違いがでできます。宿題のうまくいったところやあまり効果のなかったことなどを、みんなで話し合う場をもつことは、宿題についてじっくり考えてみるよい機会になります。

それと、子どもたちの家庭学習の様子はどのようなのでしょうか？保護者の考えも知っておく必要もありますね！

学校や家庭における子どもたちの学びの状況を十分把握しているでしょうか。また、休日等の自由時間をどのように過ごしているか、そして、保護者は宿題等についてどのような考えをもっているのかなどもきちんと把握しておくことが大切です。



自校の宿題の方針について、保護者に十分説明できるように、全職員で共通理解を図りましょう



家庭学習の在り方
学年段階を考慮した宿題の出し方
学習内容に応じた宿題の出し方
習熟度に応じた宿題の出し方
長期休業中の宿題の出し方
宿題の点検と活用の仕方
保護者への協力依頼および啓発の仕方
各教科間、学級間の調整

もう一つ大切なことがありますよ。学校週5日制を考えると、家庭教育を支援するという発想から、家庭との連携を深めていくことが大切なのではないでしょうか。

宿題を「出してほしい」と考える保護者と、「あまり出さないでほしい」と考える保護者、両者への対応を考慮した上で、次のようなことを積極的に保護者に説明し、家庭の理解と協力を得られるようにしていきましょう。

学校の考える家庭学習の在り方
宿題についての学校の方針と保護者への協力依頼
学年段階に応じた保護者のかかわり方 など

子どもや保護者の声にも十分耳を傾けていきましょう。連絡帳を活用したり、学級懇談会等での情報交換を通したりして、子どもの心を理解し、保護者との連携を深めるなど、柔軟に対応していきましょう。

よりよい宿題のために



宿題を出す際には……

1 目的を明確にしましょう

この宿題で子どもにどのような力をつけたいのか、どのような態度を育てたいのか等、目的をもって宿題を出しましょう。また、その目的に最も合う出し方についても考えたいものです。

2 やり方を具体的に教えましょう

調べ学習などで、いきなり「自分の調べたいことについて調べてきなさい。」というのでは、何をどこまでどう調べていいのかわからない場合があります。子どもは、教師が出す様々な宿題をこなしていく中で、学習のやり方を身につけていきます。「自ら学ぶ」態度を育てるためには、まず、「学び方」を学ばせなければなりません。そのためには、まず日常の教科指導の中で「どのように学習するか」を習得させることが必要です。

3 時には個に応じた宿題も考えましょう

一斉に出す宿題のよさもありますが、目的や内容によっては、習熟の程度に応じた出し方をすると子どもの学ぶ意欲を喚起することができます。習熟度の高い子どもには発展的な課題を、基礎・基本の定着が不十分な子どもには基礎的な問題をというように、その子に応じた宿題を用意しておく、一人ひとりに合った学習ができます。ただし、このような場合、子どもの受け止め方は様々です。子どもが差別感や劣等感を感じることはないよう、子どもの心情への配慮が必要です。

例えば、具体的な目安を示し、子ども自身に選択させたり、また、教師の温かい助言によって選択させたりするなど配慮して、子どもが自ら学ぶ姿勢につなげましょう。

4 授業で指導すべき内容と宿題は区別しましょう

宿題は、基本的には子どもが自分でするものです。指導すべき内容は、授業でしっかり理解させてから宿題を課すというのが望ましいでしょう。

教師が教えなければわからない内容を宿題でやらせることは、能率が上がらないばかりか、教師の責任転嫁だと不信感を抱かれる結果にもなりかねません。授業の中で指導すべきことは、授業の中でしっかりと教えましょう。

5 分量を考えましょう

宿題の量が多すぎる場合は、最初からやる気になれません。最も効果的な分量を考えて出しましょう。

また、子どもの負担を考えて、一日の宿題の量を教科間で調整することも大切です。

宿題を出したあと……

6 きちんと目を通して子どもに返しましょう

宿題を出したが、時間がなくてチェックできなかった場合、子どもはどう思うでしょう。失望したり、次からはいい加減に取り組んだりするかもしれません。

宿題を出したら、大変でも必ずチェックしましょう。宿題の目的や種類、内容などにより、

- ・チェックだけでよいもの
- ・結果を確認する必要があるもの
- ・コメントまで書いて次に生かすもの
- ・親にも子どもの様子や成長を伝える必要があるもの

など、チェックの仕方を様々に工夫することも学習効果を上げる一つの方法です。

また、取組がよかった場合には、よい点を認め、ほめてあげましょう。それがさらなる学習意欲につながり、その積み重ねにより、やがては自分で課題を見つけて取り組む「学ぶ習慣」が身に付くことにつながります。

7 教師自身も出した宿題について振り返りましょう

「先生はいつも同じ宿題を出すから、まとめてやっちゃおう。」というものは宿題のよさが生かせません。また、宿題を出しても、ねらい通りに子どもの力が伸びていないようなものもあります。

「自分の出した宿題はどうだったか」ということを、子どもの取組の様子をみながら自己評価し、工夫改善を加えましょう。今まで見えなかった視点から、自分の指導の評価ができるかもしれません。それを次の指導に生かしていけば、よりよい指導ができるのではないのでしょうか。

8 よい実践があったら教師間で情報交換しましょう

教師間で情報交換をし、効率的な処理の仕方や評価など、よい実践があったら、それを取り入れていきましょう。

今まで悩んでいたことも、すぐ解決できるかもしれませんし、色々なアイデアに出会って自分の世界が広がり、より充実した指導につながります。また、情報交換や意見交換をすることで人の和も広がります。

